



改造お印

5

中

秀作

たきのこと、は、

光子

さつ子あんが立派おしよんおんが掛

けて行ったでせう。かつら、~~な~~なつてあんが、~~の~~の

上等おしよんおんが持てませんよ。

秀作

自分の給金を貯めて買ったのたう。

光子

あなたに男たうが気がおつたにあり

みせん。あれはおの子の兄の甘藤川が東京から買

つて来たんですよ。甘藤川がたうとごらんおさい

今年の六月濱の家を請負はしてのど金の時

計は下げるし、あなたにこのごろ、~~な~~な

り考へて心配でありません。

秀作

今度の家のことについてお

光子

ええ。このお寺の離れが、たうとほんたう

は九月に、~~は~~は、お出おければ、お東たう

のどすよ。濱の新らしい家が八月の末には出

来上つて、あなたにそれ引き越すのを、お

にあつておいて、おね。

秀作

さういへば、おしよんおんが、お

座敷の、おしよんおんが、お

つお。最初甘藤川の話を、五月、お



MARUZEN

鍾